

2013年（第5回）

鳥栖・ツアイツ子ども交流事業報告書

平成 25 年 7 月 28 日（日）～8 月 12 日（月）

派遣先：ツアイツ市（ドイツ連邦共和国）



鳥栖市・鳥栖市教育委員会

目 次

* 鳥栖・ツアイツ子ども交流事業参加者名簿	1
* 事前研修	2
* 訪問日程表	3～5
* ツアイツ市概要及びツアイツとの交流のあゆみ	5～7
* 参加者の感想	8～17
* 日 記	18～34

鳥栖・ツアイツ子ども交流事業参加者名簿

引率

鳥栖市市民協働推進課 男女参画国際交流係 係長 村山一成
 鳥栖市市民協働推進課 市民相談室相談係 主事 本園恭子

団員

	生徒氏名	年齢 (4/1現在)	性別
濱邊 響	HAMABE KYO	12	男
染矢 留里	SOMEYA RURI	13	女
水之江 梨央	MIZUNOE RIO	13	女
猿渡 初佳	SARUWATARI MOTOKA	13	女
藤光 菜緒子	FUJIMITSU NAOKO	15	女
リーダー 山本 尚志	YAMAMOTO HISASHI	15	男
川島 千佳	KAWASHIMA CHIKA	16	女
リーダー 宮地 堇	MIYACHI SUMIRE	16	女
日吉 葉月	HIYOSHI HAZUKI	16	女
池部 優	IKEBE YU	16	女

事前研修

- 5月26日(日) オリエンテーション
スケジュールについて
団員自己紹介
旅行手続説明
ドイツ滞在中の注意事項
- 6月8日(土) 第1回事前研修
ドイツ語(アルファベットと数字)
ドイツ文化・クイズ(ドイツはどこにある?)



研修テーマの検討
送別会の出し物検討

- 6月15日(土) 第2回事前研修
ドイツ語(挨拶表現、名前の言い方など)
ドイツ文化(ドイツの学校)
送別会の出し物決定



- 6月22日(土) 第3回事前研修
ドイツ語(ドイツ語で自己紹介、ホームステイに関すること)
ドイツ文化(環境と福祉)
送別会の出し物の練習
団員リーダー決定



- 6月29日(土) 第4回事前研修
ドイツ語(町で使うドイツ語(買い物、集合場所など))
ドイツ文化(東西ドイツと統一ドイツ、強制収容所)
送別会の出し物の練習
日記担当者の決定



- 7月6日(土) 第5回事前研修
送別会の出し物の練習
研修のテーマ決定
滞在スケジュールとホストファミリー組合せの決定
結団式・解団式・事後研修の日程決定



結団式 7月26日(金)

本研修 7月28日(日)～8月12日(月)

解団式 8月12日(月)

事後研修 9月7日(土)・14日(土)

研修テーマのまとめ
報告書作り

報告会 10月5日(土)



訪問日程表

月日	時間	内容	移動方法	備考
7月28日 (日)	6:00	福岡空港国内線集合	各自	
	8:00	福岡空港出発(NH212便) ～9:15 中部国際空港到着	飛行機	
	10:00	中部国際空港出発(LH737便)	飛行機	
	∫	(△7時間の時差)		
	15:25	フランクフルト空港到着/入国手続		
	17:05	フランクフルト空港乗継/出発(LH160便)	飛行機	
	18:00	ライプツィヒ空港到着 ツァイツ市・受入家庭出迎え/各家庭へ	自家用車	ホストファミリーと一緒に
7月29日 (月)	11:00	ツァイツ市役所 市長表敬訪問/水害募金贈呈 ツァイツ市役所見学(市役所の塔登り)	徒歩	
	12:30	昼食(レストラン)		
	13:30	ツァイツ市内の散策	徒歩	
	15:00	青少年交流施設でホームステイ家族紹介	大型自動車	ホストファミリーと一緒に
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
7月30日 (火)	9:00	モーリッツブルグ城の見学	徒歩	
	11:30	大聖堂の見学とパイプオルガン演奏		
	12:00	昼食(城内公園の軽食)		ツァイツ市学生と一緒に
	14:30	モーリッツブルグ城内公園と日本庭園の見学	徒歩	
	15:30	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	
7月31日 (水)	9:00	エンツマン社訪問(彫金体験)	徒歩	
	10:15	モーレン薬局訪問		
	12:00	昼食(レストラン)		
	13:30	エネルギー会社訪問/浄水場見学	大型自動車	
	15:30	地下ツァイツの見学		
	17:30	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車	

月日	時間	内容	移動方法	備考	
8月1日 (木)	8:30	ワイマールへ出発	大型自動車		
	10:30	ブーヘンヴァルト(強制収容所跡)記念館の見学			
	13:00	昼食(ワイマール市内のケバブ料理店)			
	14:30	ワイマール市内散策/ツァイツ市へ移動	大型自動車		
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車		
8月2日 (金)	8:00	ヴァイセンフェルスへ出発	大型自動車		
	9:00	ツァイツ市管轄の警察署見学			
	10:00	シュヴァーネンシューレ小学校の日本庭園開園式			
	12:00	昼食(青少年の家)			
	13:00	青少年の家でツァイツ市の学生と交流(ドラム演奏)			ツァイツ市学生と一緒に
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車		
8月3日・4日 (土・日)		ホストファミリーと自由行動			
8月5日 (月)	8:30	ネブラへ出発	大型自動車		
	10:00	アルヒェネブラ博物館見学			
	12:30	昼食(パート・ケーゼンのレストラン)			
	14:00	ケーテ・クルゼ博物館見学/ツァイツ市へ移動	大型自動車		
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車		
8月6日 (火)	8:30	養蜂場見学	大型自動車		
	10:00	乗馬体験			
	13:00	昼食(乗馬クラブ内で食事)			
	14:00	青少年の家へ移動	馬車		
	15:30	風車の見学/ダニチーズ博物館の見学	大型自動車		
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車		
8月7日 (水)	8:30	イエナへ出発	大型自動車		
	9:30	プラネタリウム/植物園見学			
	12:00	昼食(チューリンゲンソーセージの軽食)			
	13:00	イエナ市内散策/ツァイツ市へ移動	大型自動車		
	17:00	市民プールで泳いだ後解散・受入家庭へ帰宅	自家用車		
8月8日 (木)	9:00	ポーザ修道院見学	徒歩		
	10:00	ブドウ園見学、カクテル作り			
	12:00	昼食(ブドウ園の手作りスープ)			
	14:00	青少年交流施設でピザ作り、キャンプファイヤー	徒歩		ツァイツ市学生と一緒に
	17:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車		
8月9日 (金)	9:00	日本料理の調理(青少年の家)			
	12:00	昼食(青少年の家)			
	13:00	送別会出し物の準備・練習			
	18:00	ツァイツ市関係者及びホストファミリー等で送別会			ホストファミリーと一緒に
	22:00	解散・受入家庭へ帰宅	自家用車		

月日	時間	内容	移動方法	備考
8月10日 (土)		ホストファミリーと自由行動		
8月11日 (日)	8:30	ライプツィヒ空港集合・待合/搭乗手続	自家用車	ホストファミリー見送り
	10:55	ライプツィヒ空港出発(LH161 便) /~11:55 フランクフルト空港到着	飛行機	
	14:50	フランクフルト空港乗継/出発(LH736 便)	飛行機	
8月12日 (月)	∫	(時差 +7時間)		
	8:35	中部国際空港到着/乗継		
	10:00	中部国際空港出発(NH219 便)	飛行機	
	11:30	福岡空港到着/入国手続・荷物受取		
	12:00	福岡空港出発	貸切バス	
	13:00	鳥栖市役所到着/解団式		

ツァイツ市概要

位置

ツァイツ市はドイツの北東部にあるザクセン・アンハルト州の南端にあります。

ツァイツ市はライプツィヒの南西42kmに位置し、ライプツィヒ空港まで車で約1時間ほどです。

面積

87.16 km²

人口

29,639人

特徴

●交通の要所

ツァイツ市は、2つの高速道路A9、A4が近くを走り、市内でB2、B91、B180の3本の国道が交差しています。鉄道は、ライプツィヒ - ゲラ線が通っており、交通の便がよい街です。

●主な工業

化学工業が最も盛んであり、機械工業、環境工学、採炭工業、サービス業があります。

歴史

967年、ツァイツがCiciの名前で文献にでています。中世の頃、司教の居住地として栄え多くの歴史的建造物が作られました。

19世紀半ばに、石炭鉱業が盛んになり、1900年代前半には、化学製品やピアノ、乳母車、褐炭処理機械が世界中に輸出されました。

1936年フッペルのピアノ製造工場がピアノ製造を停止、戦後工場は閉鎖されました。


1949~1990年ドイツ民主共和国(東ドイツ)に属し、計画生産のもと多くの工業が盛んでした。

1990年東西ドイツ統一。

ツァイツとの交流のあゆみ

年	月	主な内容
1998	10	朝日新聞鳥栖通信局の記者が、フッペル社がドイツのツァイツ市にあったことを確認。
1999	3	「映画『月光の夏』を支援する会」事務局長が鳥栖市長の親書を携えツァイツ市を訪問。朝日新聞鳥栖通信局記者が同行。
	5	ツァイツ市長から交流を推進したいと返信がある。
2000	3	「鳥栖こどもピアノコンクール実行委員会」が、受賞記念コンサートに、ツァイツ市音楽学校校長及び生徒2名とツァイツ市職員を招待。
2001	4～5	「鳥栖こどもピアノコンクール実行委員会」代表、コンクール受賞者2名、秘書広報課長がツァイツ市を訪問。
2002	3～4	ツァイツ市長、学校文化局長が鳥栖市を訪問。今後の交流及び2004年庭園博覧会の日本庭園整備に対する技術協力について協議。
	6	市報でツァイツ市との文通希望者を公募。随時、希望者に手紙を配布し文通が始まる。
	6	鳥栖市緑化協力会会員2名と広報広聴課長が、ツァイツ市を訪問。日本庭園整備のための現地調査を行う。
2003	5～6	鳥栖市緑化協力会会員4名をツァイツ市へ派遣。庭園博覧会会場内に日本庭園完成。
2004	7	鳥栖市長を団長とする総勢17名の訪問団がツァイツ市を公式訪問する。また、庭園博覧会“日本の週”で日本文化を紹介する。
2004	8	鳥栖市の中学生10名、引率3名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活や学校などを体験。
2005	4	ツァイツ市長をはじめとする4名が鳥栖市を公式訪問。企業視察、伝統文化体験、市民との交流を深め、教育、スポーツ分野での交流について協議。
2005	5	ツァイツ市の学生10名、引率2名が鳥栖市を訪問。ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2006	1	フッペル平和記念鳥栖ピアノコンクール受賞者がツァイツ市を訪問。ツァイツ市芸術発表会で演奏をするなど、音楽を通じて交流を深めた。
2006	8	鳥栖市の中高生10名、引率3名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。
2006	10～11	ツァイツ市の芸術家が、鳥栖市緑化協力会の協力により東公園（ドイツエリア）にモニュメント「月への28の望み」を制作。
2006	11	鳥栖市議会議長をはじめとする5名がツァイツ市を公式訪問し、議会や環境についてなど意見交換を行った。

年	月	主な内容
2007	5～6	ザクセン＝ツァイツ公国 350 年祭に招待を受け、鳥栖市、フッペル平和祈念鳥栖ピアノコンクール実行委員会、鳥栖市文化連盟の代表者らが公式行事に参加。また、フッペル平和祈念鳥栖ピアノコンクール受賞者が招待客らを前に演奏をした。
2007	7～8	ツァイツ市の学生 10 名、引率 2 名が鳥栖市を訪問。ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2008	3	アンナ・マグダレーナ・バッハ音楽学校マティアス・ブッターナー校長及び学生 2 名が鳥栖市を訪問。音楽学校生徒 2 名がピアノコンクール受賞者記念コンサートに出演し、音楽を通じて交流を深めた。
2008	7～8	鳥栖市の中高生 7 名、引率 2 名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。
2008	7～8	鳥栖市長及び随行 1 名がツァイツ市を訪問。両市の新市長就任により初対面。子ども交流事業の期間中でもあり、子どもたちの交流を一緒に体験することができた。
2009	6～7	ツァイツ市の学生 9 名、引率 2 名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2010	7	第 1 回ツァイツ市砂糖祭に招待を受け、ツァイツ市を訪問。鳥栖市長の代理として鳥栖市副市長、鳥栖市議会議長らが公式行事に参加。
2010	8	鳥栖市の中高生 10 名、引率 2 名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。
2011		東日本大震災によりツァイツ市からの来日が延期。ツァイツ市からの義援金約 233 万円が鳥栖ロータリークラブへ送金された。この義援金は、鳥栖市長より気仙沼市長へ届けられた。
2012	5	ツァイツ市長をはじめとする 4 名が鳥栖市を公式訪問。友好交流都市協定を締結。エネルギー関連企業等の施設を視察し、さまざまな意見交換を行った。 ツァイツ市の学生 10 名、引率 2 名が鳥栖市を来訪し、ホームステイにて日常生活や学校・日本文化を体験。
2013	7～8	鳥栖市の中高生 10 名、引率 2 名がツァイツ市を訪問し、ホームステイにて日常生活を体験。平和交流の一環として、ワイマール市にある強制収容所跡のブーヘンヴァルト記念館を見学。ツァイツ市へ水害義援金約 159 万円を贈呈。



団員の感想

「ツァイツの大切な家族」

濱邊 響

ドイツに行く前は、「自分の英語はちゃんと通じるのだろうか」ととても不安でした。

Hinke 家の皆さんは、ライプチッツヒ空港で迎えてくれた時から、僕に笑顔で接してくれて、とても優しくしてくれました。その笑顔で僕の緊張もすぐにほぐれ、英語で少し話してみました。ちゃんと通じることがわかると、僕の心の扉がどんどん開かれ、話すのが楽しくてたまらなくなりました。

16日間の滞在の中で最も思い出に残ったことが2つあります。



切り、カリカリに焼いたパンを入れて丸めます。それを茹でると完成です。ふんわりして、もちもちして、これまでに食べたことがない不思議な食感でした。

もう一つは、ツァイツ滞在の最終日に、父が僕をバイクの後ろに乗せてくれて、ツァイツの街を一周してくれたことです。生まれて初めてバイクの後ろに乗りました。父の背中を握りしめて、ツァイツの風を感じながら、走ったことは僕の最高の思い出です。

鳥栖に帰った今も、ツァイツの家族とはメールをしたり、写真のやり取りをしています。父は僕の事を「My best friend」と呼んでくれます。

僕はツァイツに最愛の家族が出来ました。



1つはツァイツの両親が、僕のために特別に考えてくれた計画です。キャンプファイヤーの日、僕だけ早く家に帰りました。なぜ?とっていたら、家族みんなで集まり、ドイツの伝統料理、「じゃがいもダンゴ」(カルトツフェルクヌーデル) のつくり方を僕に教えてくれたのです。

「モンスターマシーン」と父が呼ぶミキサーのようなもので、皮をむいた生のじゃがいもを粉碎し、水分をとり、茹でたじゃがいもと合わせ混ぜます。中に、1cm位に



「ドイツ見聞録！楽しかったツァイツ市へのホームステイ」

染矢 留里

7月28日（日）から私たちは、ドイツに行ってきました。最初は、かなり心配で気持ちが落ちつかないけど、みんなで励まし合って、なんとか安心する事ができました。飛行機に乗った時に、飛行機酔いでへろへろになりました。



バックを取って出ると大勢のホストファミリーの方々が来て下さっていて、とても嬉しかったです。最初、ホストファミリーを見つけられなくて、困っていたら、エリザベス（ホストファミリー）の子が声をかけてくれて、とても安心しました。

ホストファミリーの子は（2人）とても明るくて、飛行機酔いになっていた私に、いろいろ声をかけてくれて2人にとっても救われました。

今まで心に残った出来事は、ツァイツの地下を歩いて見学したことです。最初は暗くて怖かったけど、その暗さに慣れてきたら、とても楽しかったです。途中、まっくらになった所もあったけど、それが、逆に楽しかったです。地下から出た時、エリザベスがいて、めっちゃ写真撮られました。とても騒がしくなって楽しかったです。

ホストファミリーの企画は、チョコレート工場とバーベキューが楽しかったです。チョコレート工場は、ある意味で楽しかったです。食べてはいけない物を食べたり、あれは本当に苦くてまじかったです。水を飲んでもだめだったし・・・(カカオ)とても騒がしくなって楽しかったです。

バーベキューはソーセージとか、その他もろもろのお肉がいっぱいでした。ドイツのお肉って食べやすくて好きでした。ドイツ人は食べるより、泳ぐほうがメインになっていて、とても元気だなと思いました。

私は2週間ドイツに行って、新しい目標ができました。それは、高校はドイツの学校へ行くという事です。難しい目標だとは思いますが、親を説得して絶対にドイツの学校に行きます。

このような体験をさせて下さったみなさんにとっても感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



「ドイツに行って」

水之江 梨央

私は、今回の鳥栖の国際交流事業で普段なかなかすることのできない貴重な体験をすることができました。

ドイツに行く前の事前研修では、ドイツ語やドイツの歴史などたくさんのことを学びました。行く前は本当に習った言葉がちゃんと伝わるのかなど、たくさん不安がありました。

私はいくつかのことを学びました。



1つ目は、リサイクルについてです。家の中にはリサイクルをするペットボトルを入れる箱があり、家の外にはリサイクルボックスが3つありました。ペットボトルはスーパーに持って行って買い物の割引券に換えてもらいます。スーパーで驚いたことは、袋が有料になっていたことと、入口にはゲートのようなものがあったことと、カートにコインを入れて使っていたことです。

2つ目は、ドイツの街並みについてです。ツァイツ市には、ビルなどの近代的な建物はなく、古い建物がたくさんありました。家の屋根はレンガのような朱色で、壁は白に統一されていたので、市役所の塔や飛行機から見下ろすと、オレンジと白と緑でとてもきれいでした。



3つ目は、ワイマールにある強制収容所についてです。そこは、車から降りると少し雰囲気が違いました。まだ、歴史では出てきていなかったのに全然知らなかったけど、映画とか死体の積み上げられた写真などを見ると、そこで何があったのかが分かり、すごく悲しくなりました。収容所であったことの説明を聞いても、今では絶対考えられないようなことが行われていたので、とても理解しにくかったです。

一番うれしかった思い出は、誕生日を祝ってもらったことです。朝からケーキを食べて、その日は3食ケーキを食べました。プレゼントもいろんな人からもらいました。



私は中2でこういう体験ができて、とても良かったと思います。英語もあまり話すことはできなかったけれど、少し話せてよかったです。ホストファミリーと今度会うときは、もっと英語もドイツ語も話せるようになって、また会いたいです。

「ドイツに行って学んだこと」

猿渡 初佳

私は、ドイツに行って積極的に話すことの大切さを学んだ。また、人と通じ合うことがとても難しく、ありがたく、うれしいことだと知った。

私は、ドイツの人とたくさんコミュニケーションをとりたいという気持ちを胸にドイツへ行った。しかし、そう簡単なことではなかった。初めてホストファミリーと会った日、たくさん話したいことはあったのに、HELLO!とYESまたはNOぐらいしか言葉にできなかった。でも、日がたつにつれてホストファミリーの人が話しかけてくれて会話の輪に入ることができた。ホストファミリーの人は、日本人の私と比べると、とても英語が上手だった。速くて聞き取るのが難しかったけれど、私は1つでも知っている単語が出てくるように一生懸命聞いた。そして、ホストファミリーの人が言っていることが少しでも分かるとうれしかった。

これ以上にうれしかったことは、全く言葉が通じなかった時でも、お互いに、伝えたり受けとめたりすることをあきらめず、何とか通じ合おうとしたことだ。ホストファミリーのお父さんは、英語を全く知らなかった。私がお風呂に入りたかった時、お父さんしかいなかった。だから「シャワー」と言ってみただけれど、お父さんは理解しようとしてくれていたが分かってもらえなかった。だから、私は頭を洗う手ぶりをしたり、シャワーを持っている手ぶりをしたら、お父さんは分かってくれた。私は自然とほほ笑んだ。お父さんもうれしそうに笑っていた。ジェスチャーを使って会話をしようとすることで、言葉は通じたにしろ通じなかったにしろ、心は通じ合うことができた。

コミュニケーションをとるために、積極的に話しかけると、すぐに友達ができた。また、ドイツの人たちにあまり英語が話せなくても、身ぶり手ぶりを入れて積極的に話しかけた時にも、友達ができた。

私は、今回このドイツでの経験を通して、ますますいろいろな国へ行ってみたいと思った。日本には世界に誇れることがたくさんある。そのことを世界に伝えていきたい。そのためには、世界の良いところ、文化なども学んでいかなければいけないと強く思った。さらに、コミュニケーション能力を高め、積極的に英語を勉強し、努力していきたいと思う。



「ドイツ」

藤光 菜緒子

私は、ドイツに行く前、自分が英語を話し、そして英語を理解できるか、日本人、ドイツ人のみんなと仲良くなれるかとても心配でした。英語はあまりうまくしゃべれなかったけれど、ジェスチャーを加えての英語でなんとかドイツの人に伝えることができました。そして日本人、ドイツ人とは結構仲良くできたと自分では思っています。先輩方がとても優しくして下さって、また、中学生とはちょっとずつ仲良くなりました。そして、ドイツ人はとてもフレンドリーでとても楽しい日々を送ることができました。

私がドイツで学んだことは、ことばの難しさです。普通に話せることのすごさがよくわかりました。人がコミュニケーションをとるといことは、とても大事なことでもっと英語を上手に話せるようになりたいと心から思いました。そしてドイツで思ったことは、ドイツ語には敬語があまりなくて初めてのひととでも、いつものように会話ができるすばらしさです。特に「チュース」という言葉は、私が一番好きになった言葉です。「チュース」はさよならという意味をもっていて人と別れるときに用います。目上の人にも気軽に使えて、日本にもあるととても便利だと思いました。



そしてドイツで印象的に残っていることは、家族でドレスデンに行ったことと、ホストファミリー同士で集まって食事をしたことです。ドレスデンでは美術館に行きました。ドレスデンの町並みはテレビでよく見るようなきれいで、自分が本物を見ているなんて信じられないほどでした。そして美術館では、自分の大好きなラファエロの絵をみることもできたのでとても幸せでした。帰りには、アイスクーキを食べました。この日はとても充実していて、とてもいい思い出になりました。ホストファミリー同士の食事は笑いの絶えない食事会で、とても楽しかったです。みんなで歌ったり、カードゲームしたり、かけがえのない時間を送ることができました。



今回、ドイツに行けて幸せでした。ホストファミリー、家族、市役所の方々には感謝しきれません。一生忘れられない思い出ができました。ありがとうございました。



「初めてのホームステイと異文化交流」

山本 尚志

今回の交流では様々なことを学ばせて頂きました。私がこの交流事業に参加しようと思った理由は中学2年生の時に担任の英語の先生と行った個人面談に起因します。小さい時から、所謂“人見知り”で人生損ばかりしてきたように感じていたので変わるきっかけが欲しかった、そんな折に、担任だった英語の先生から「人見知りの人は留学すると良い。自ずとコミュニケーションを取らざるを得なくなる」という言葉を頂きました。新しい環境に飛び込むことを決めるには多大な勇気を要しましたが、自分がどこまで通用するか挑戦しようと思いました。

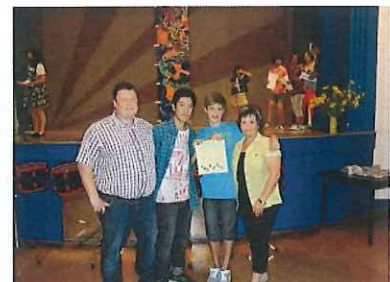
今回の交流の目標は主に英会話をどこまでこなせるか、というところに帰着しますが、自分からしてみると、よく出来たかなという風に思います。日本語が通じる人がいない時にしか英語できちんと会話をしたと言える時はありませんが、最初の二日間は、何か英語で自己表現をする際には、まるで英作をするかのように自分の部屋に戻って一人で作戦会議(?)をしていました。



三日過ぎた辺りからは、主に家庭内での会話は考えるより先に言葉になっていて、正直驚いたし、上手く順応できたことは嬉しかったです。途中から自分の英語に自信が持ててきたので、どこまで英文法を壊しても通じるか、遊ぶと言っては言葉が悪いですが試してみもしました(褒められたことでは無いですが)。

このように、英語を話して自分自身の考えを表現することは非常に楽しかったし、英語が通じるということに自信を持てて良かったと思います。これを一番体感したのは、日本特有の食べ物などをお土産で沢山持って行ったのですが、その使い方、食べ方、味などをきちんと説明した時だと思います。英語を話して楽しいと思ったのはそれが初めてでした。一方で、最終日に英語で家族を説得した時も、次元こそ違いますが同じように楽しかったです。

若干気がかりだったこともあります。よく、「外国で『どうでもいい』はNG」と言われますので、そう言わないように気を付けていました。しかし何が食べたいのかという質問に対し、もうドイツと言えばソーセージしか頭に無かったので最後まで殆どソーセージで通してしまいました。きっと日本人にとって蕎麦のような、毎日食べるわけでも無い国の特産品を強要してしまったことに若干苦しさを感じました。しかし、ホストファミリーはいつも笑顔で、私の我儘を聞いてくれました。たった二週間の事とはいえ、私を温かく迎えてくれた家族の皆には感謝してもし尽くせないほどです。



と、ここまで長々と感想を書きましたが、凡庸で、汎用なものになってしまったので、いくつか土産話になる面白いディスコミュニケーションの話もあったのですが、それよりも衝撃的だった、コミュニケーションの中で起こった小話のようなものを一つ。

ドイツに着いてから三日目の夕方、ボウリングに連れて行ってもらったのですが、その時に言われた一言。“I think bowling is boring cuz I've known it.” これにはもうやられました。ジョークをサラッとと言えるとは何て格好いいでしょう。今回英語で会話した中で特に難しいと感じたのはジョークと感嘆文、これらをこなせる英語上級者になりたいなと思わせてくれる一言でした。

「私が学んだこと」

川島 千佳

表現するって難しい。他にも、私は今回の研修でいちばんに思ったのはこのようなことでした。何が欲しい、どうしたいなど自分の気持ちがうまく伝えられなかったり、適当な言葉がでてこなかったりなど、言葉が通じないというもどかしさはとても私にとって大きいものでした。いくら学校で習ってはいるというもの、実際に英語を話す機会はそれほどなく、これほどまで長時間日本人ではない人とコミュニケーションをとるとというのは初めての経験でした。拙いながら自分の英語で意見を理解してもらえた時には笑顔で返してくれてとてもうれしかったのを覚えています。やはり、書く英語と話す英語は違うのだなど改めて感じました。



私はいつもコミュニケーションを取る上で「相手の目を見てはっきり話す」といくことに気を付けているのですが、今回の研修ではそれができたのではないかと思います。私に話しかけてくれた時も、ドイツの人はみんな目をしっかり見て、相手の反応をよく見て話していました。日本人は曖昧さを美德としているところがありますが、ドイツでははっきりとした意見を求められることが多く、こういうところでも違いを感じていました。

また、ホストファミリーとのコミュニケーションを通じて感じたのが、みんな笑顔で頷いたり手をよく使ったりなど、ジェスチャーが大きくて話していて分かりやすいということでした。

一方、日本と同じだと感じたところもいくつかありました。日本のアニメーションはやはり人気で、絵を通じた交流をしたり、日本のバラエティーを見て一緒に笑ったりしました。他にも寿司のお店がある、時々日本の商品も陳列している、など日本との交流の多さを感じさせるところもたくさんありました。また、ドイツの人の相手の気持ちを考える優しさや真面目なところは日本と同じで素晴らしいなと感じました。

今回の研修で、私は様々なことを得て、感じ、学習しました。ドイツに大切な人がたくさんできたし、人の優しさにたくさん触れることが出来ました。とても楽しくてびっくりすることばかりで、ドイツのことが大好きになりました。



この素晴らしい機会をくれた市役所の皆さんや後押しをしてくれた私の両親、私を快く受け入れてくれた大好きなホストファミリーのみんなにあふれるほどの感謝の気持ちを伝えたいです。

今後、様々なところでこの素晴らしい経験を生かしていきたいと思います。

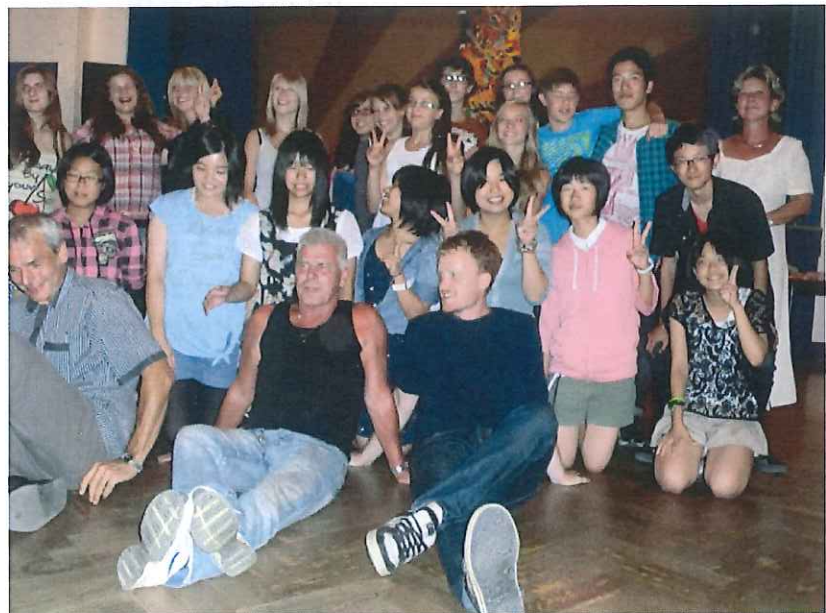
ありがとうございました。

「ドイツで学んだこと」

宮地 董

私はこの交流事業で、自分の気持ちを他の人に伝える大変さを学びました。一緒に行った子達と2週間、毎日朝から過ごし、そして夕方からはホストファミリーと過ごす。日本人同士でも2週間もずっと一緒にいれば、嫌だなあと思うことができてきたりするのに、言葉が通じない文化が違う人に自分の気持ちを伝えるのが、いかに大変かがわかりました。我慢しないといけない部分もたくさんあったし、年上だということで中学生の通訳をしてあげないといけない、一度にたくさんの方のことを学びました。

ですが、今回ホストファミリーに恵まれて、私があまり英語を話せなかったり、話すのに時間がかかっても待っていてくれて、聞いてくれて、たくさんコミュニケーションがとれました。前回ツァイツの学生を受入れたとき、どうしてあんなにコミュニケーションがとれなかったのか不思議なくらい仲良くなり、メールアドレスも交換し、来年また会おうという約束までできるくらい仲良くなったのは、すごく嬉しかったです。



「ドイツでの2週間」

日吉 葉月



私は、鳥栖市の国際交流事業でドイツにホームステイしました。この2週間は、日本で普通に生活しては決して体験できないものでした。驚きや、発見、自分の気持ちを上手く伝えられないもどかしさ……。とにかく、忙しい日々でした。

ドイツに行く前は、期待よりも不安の方が何倍も大きかったです。英語を話せるのか、向こうの人と仲良くできるのか……。しかし、ホストファミリーが温かく迎え入れてくれたので、不安がなくなっていくのがわかりました。

私が、この2週間で最も痛感したことは“言葉の難しさ”です。日本語が全く使えない状況で、英語だけで会話するのは予想より困難なことでした。思っていることを正確にスラスラ英語にできないし、人見知りなので、最初は自分から話しかけられませんでした。しかし、そんな私の英語をホストファミリーは笑顔で最後まで聞いてくれたので、だんだん自分から知らない人にまで話しかけられるようになりました。

私は、言葉の難しさを学びました。しかし、それと同時にどうにかなるということも学びました。コミュニケーションには、“話す”だけでなく、ジェスチャーやアイコンタクト、絵で描いて伝えるなど様々な方法があります。これらを、言葉と組合せて使えば大抵のことはどうにかなりました。一番ダメなのは、何も言わないことだと思ったので、とりあえず何か言うのを心がけました。ホストファミリーのおかげで、会話が楽しかったです。

たった2週間でしたがとても貴重な時間でした。ホストファミリー、ドイツの市役所の方々、通訳者、私たちに色々なことを教えてくれた現地の方々……。たくさんの人との思い出ができました。最初は不安でしたが、勇気を出してこの事業に応募して本当によかったと思います。この事業を計画してくださった方々、市役所の方々、ホストファミリー、私の両親……。私たちのためにお世話してくださってありがとうございます。とても貴重な経験になりました。



「優しさにふれて」

池部 優

ドイツへ行く前、ほとんど不安はなく、楽しみとだけしか思ってなかった私が、最初に不安を感じたのは、フランクフルト空港についてからでした。初めての海外で家族も一緒じゃなくて、これから2週間大丈夫なのだろうか心配になりました。

初めてホストファミリーと食事をしたその日の夕食、全て英語で会話しないといけない状態で、言いたいこともすぐ言えない。助けを求めても誰も教えてくれないことに、もどかしさを感じました。そして同時に、何てどこにも来てしまったんだろうと思い、日本が恋しくなりました。

日にちを重ねていくと、ホストファミリーとも仲良くなり、自分の英語にも自信が持てるようになりました。また、どこに住んでいても、どんな言葉を話しても、みんな人間なんだから恐れることはないと思うようになりました。それも、ホストファミリーが私を家族のように接してくれたからだと思います。どんなに離れていても交流を続けたいと思える存在になりました。

いつか絶対もう一度ドイツへ行って、今度はちゃんと感謝の言葉を伝えたいです。市の方々にも感謝しています。



日記



日時：平成25年（2013） 7月28日（日曜日） 天気 晴れのち雨

今日の日程

福岡空港 → 中部国際空港 →
フランクフルト空港 → ライプツィヒ空港
→ ホストファミリーの家へ



待ちに待ったドイツ出発の日でした。朝6時に空港集合ということで、みんな少し眠そうでした。中部国際空港まで約1時間、フランクフルト空港まで約12時間、ライプツィヒまで約1時間 計14時間のフライトでした。12時間という長いフライトは初めてで、長いんだろうなあと考えていたけど、着いてみれば意外と早く感じた。入国のときに英語が話せないということで、とまどって、自分は2週間ホームステイをやっていけるかすごく不安になった。でも、やさしく明るいホストファミリーに迎えられ、その不安はすこしだけ吹き飛びました。夜はみんなで、家の庭でご飯を食べ、自分から話しかけることは難しかったけど、たくさん話しかけてくれたので、不安も吹き飛び、楽しい初日を終わることができた。

これから、自分から話しかけて、2週間を有意義に過ごしたい。

担当： 宮地 董

日時：平成25年（2013） 7月29日（月曜日） 天気 晴れ

今日の日程

- | |
|------------------|
| ツァイツ市役所で市長訪問 |
| ルスティアで昼食 |
| ツァイツ市内散策 |
| 青年の家でホストファミリーと交流 |



この日は、11時に市役所集合だったので、遅くまで寝て良かったのだが、慣れていない家や時差ボケもあり、家族の中で一番早く起きてしまった。ドイツの朝ご飯はパンとたくさんのジャムだった。

朝ごはんの後、アントニアの父が迎えに来るまでレアの部屋で学校の様子などの写真を見せてもらった。ドイツの学校は制服やスクールバックはなく、とても自由な感じだった。時間になってお迎えが来たとき、なおこちゃんに会えて、たった半日会ってなかっただけなのに、すごく久しぶりに日本人に会えたようでとても安心した。市役所では市長さんに会って、鳥栖市内で集めた義援金を渡しました。幼稚園などが、まだまだ復興していないようなので、この義援金で1日でも早く元通りになると嬉しい。

市役所を見学した後に、ルスティカという店で昼食をとった。ドイツといえば、ソーセージというイメージが強かったので、ここでソーセージが出てこなかったのにびっくりしたが、ジャガイモが出てきてイメージ通りだと安心した。ドイツのお店では、お水でさえも注文しなければならなくて、日本で水が無料で出てくることの有り難さを感じた。

その後、鳥栖とは全然雰囲気の違うドイツの町を散策して青年の家へ行った。そこでは、サッカーやバドミントンをして遊んだ。ただ、ドイツ人をうまく誘えなくて、日本人同士で遊んでしまったのは、少し後悔している。

解散して、私はホストファミリーとスーパーに行った。売っている野菜などは日本とあまり変わらず、少し安心した。その後、なおこちゃんが泊まっているアントニアの家に行った。日本語で会話できるという安心感があり、そこで、レアとアントニアと弟のモゴートと仲良くなった。またそこでドイツに来て初のソーセージを食べた。焦げてたけどおいしかった。前日に比べたら、少しはドイツの空気にも慣れてきたと感じた2日目だった。

担当： 池部 優

日時：平成25年（2013） 7月30日（火曜日） 天気 晴れ



今日の日程

モーリツブルグ城見学／教会見学
城内公園と日本庭園の見学
⇒各家庭へ

ドイツに着いて3日目、まだ生活には慣れないが思っていたよりカルチャーショックはなかったように思われる。通常の水が炭酸水であることも、考えれば何ら違和感のないことだったし、てつきり靴を履いたまま家で生活するものだと思ったら、脱ぐし、少々不便ではあるが快適な生活である。不便なことは、ドイツの人々が学ぶのがイギリス英語のようで、時々発音が違う単語があることや、熟語が通じなかったことなどがあった。受験英語とは役に立たないものだなと実感した。

本日は起きてからモーリツブルグ城を見に行った。西洋の城といったら豪華絢爛なものを想像していたら案外地味だった。それもそのはず、千年程度前のものだったのである。日本と西洋の造り、装置、ギミックなどにも差異があって、根本の城を守る為に闘うという点は変わらないが、この城には地下通路や塹壕のようなものがあった。しかし個人的には日本の城のほうが格好良いので好みだ。

その城の中には教会があって、宗教改革のときにはルターが訪れたり、またそのルターの孫の墓があったりした。三十年戦争などでカトリックとプロテスタントを行き来したらしいが、その派手な教会は明らかにカトリック向きだと思ふ。またドイツが宗教改革と密接な関係があることを失念していたが、家で宗教に関することは何もなかった。以後、気をつけようと思ふ。

その後、日本庭園を見に行った。洪水の影響で砂利がなくなっていたが、石庭は世界地図（石が大陸、砂利が大洋）を表しているらしい。本物の庭園としてはいけないだろうが、こうした文化の広がる上での工夫というか、ちょっとした機転は良いなと感じた。

プログラム終了後は、違う家庭と一緒にプールとボウリングに行った。これを機に多くの人と仲良くなれたらいいなと思ふ。

担当： 山本 尚志

日時：平成25年（2013） 7月31日（水曜日） 天気 曇り

今日の日程



9:00～ エンツマン会社・薬局訪問
12:00～ 昼食
13:30～市営企業会社訪問・浄水施設見学
15:30～ ツァイツの地下通路見学
17:00～ 解散

○エンツマン会社・薬局訪問

キーホルダーに自分のイニシャルと、水筒に写真を貼りつける体験をしました。イニシャルを貼る作業では少し失敗してしまったけれど、とても楽しくできたので、いい思い出になりました。そしてその後にお店の方が軽食にワッフルやドーナツ、すいかなどのフルーツ、飲み物を準備してくださって、そこで一緒にきた日本のメンバーと楽しく過ごすことができました。

○浄水施設見学

この施設の第一印象は“におい”です。下水の施設ですから、嗅いだことがあるようなないような、すごいにおいがしました。しかし、水をきれいにする技術はとてもすごくて、汚い水をきれいな水にし、川に流すという単純にみえて、とても難しそうな作業をしていました。私はもっと水を大切にしないといけないと改めて思いました。

○ツァイツの地下通路見学

地下通路は寒くて、かつとても湿度の高いところでした。なので、ビールを保存するのにぴったりの場所でした。1家族分のビールの保存場所が広くて、昔からドイツの人はビールが大好きなんだということがわかりました。

今日の見学では、学んだことが多かったです。明日の見学もとても楽しみです。

担当： 藤光 菜緒子

日時：平成25年（2013） 8月1日（木曜日） 天気 晴れ

今日の日程



8:00～ 「青少年の家」 集合
8:30～ 強制収容所跡 見学
10:30～ 記念館訪問
⇒ワイマール市内散策
15:30 ツァイツへ帰路／解散

○強制収容所跡

独房室は狭く、トイレや洗面台も共同だった。1～26部屋ぐらいあり、扉や部屋の中に花が置いてあるところもあった。

門の中にある建物の中には、目を背けたくくなるような死体が束になっている写真、骨つぼ、身長を測定すると言って1人ずつ部屋に入れ身長を測る所に立たせる。背中をつける所に小さな穴があり、隣の部屋からその穴に銃を入れて射殺する部屋や火葬場、死体置き場、射殺場や記念館があった。いかに効率的に大量に殺害をしようと考えていたかが分かった。

○記念館

私は、広島や長崎と似ている場所だと思っていたが違った。広島や長崎は他国から受けた被害の様子を展示してある。しかし、ブーヘンヴァルトは同じドイツ人から強制労働や殺害が行われている施設があったので、殺害方法なども分かった。

レプリカではない実際の火葬場などはリアリティーがあり、その様子が想像できて怖かった。しかし、私たちは若者のうちにこのような施設に行く必要があると思う。貴重な体験ができた。

担当： 日吉 葉月

日時：平成25年（2013） 8月2日（金曜日） 天気 晴れ

今日の日程



ツァイツ警察署・消防署見学

シュヴァーネンシューレ小学校の

日本庭園開園式

打楽器によるパーカッション

解散・受入家庭へ帰宅

今日、まず始めにツァイツの警察署に行った。中はとても厳重で、いつもの見学場所ではどこでも写真を撮っても良いと言われたが、ここでは禁止だった。実際に罪を犯した人もそこにいたようで、中の空気は緊張していた。犯人の特徴を記録するやり方を実際にやってもらったり、指令室に入ったり特別なパトカーに乗ったりなど様々な貴重な体験が出来た。銃（弾は入ってはいなかった）を見せてもらい、構えさせてもらうこともあった。今日は私のホストファミリーも一緒に見学しており、サングラスをかけて銃を構えている姿を写真で撮ってファミリーに見せたところ、「ターミネーターみたいだ」ととても喜んでくれた。

小学校では日本庭園の開園式が行われた。これは小学校の先生が日本の庭園をまねて作ったもので、池の中に蓮の花があるなど、日本風でどれも落ち着きがあった。枯山水には石で“Zeitz・Tosu”の文字があり、ツァイツ市と鳥栖市の関わりを強く感じた。その後少しの時間だったが、その小学校の生徒の女の子と、日本とドイツのスクールライフについて話した。ドイツでは英語の教育が早くから行われているらしく、日本がまだ国際社会に対する意志が足りないのはこういうところでもあるのだろうなと感じた。

その後青少年の家に戻り、それぞれのホストファミリーと一緒にパーカッションをした。みんなでリズムを合わせるのはとても大変なことではあったが、楽しく出来たことは本当によかったと思う。これまでの5日間で、言葉があまり通じない中でも、自分のホストファミリー以外にも友達が出来てうれしかったし、自分の英語がなんとなくでも伝わったことは自信になった。

担当： 川島 千佳

日時：平成25年（2013） 8月3日（土曜日） 天気 晴れ



今日の日程

受入家族の企画

今日は、エリザベスやコンラートたちと電車でライプツィヒへ行きました。駅で驚いたことは、切符はあったけど改札がなかったことです。でも改札のかわりに、切符にスタンプを押すところがありました。あと、駅ではドイツで初めての自動販売機がありました。

ライプツィヒは博多のような所で、ツァイツより人が多かったです。雑貨の店に入ると、見ているだけで楽しいおたまや扇子などたくさんの商品がありました。お昼ごはんはマクドナルドに行きました。メニューは日本とあまり変わりませんでした。私はハッピーセットみたいなものを頼みました。それには、リンゴが入っていてびっくりしました。すごくお腹いっぱいになりました。その後、また店に戻って、今度はヨーグルトでできたアイスを食べました。トッピングにはハリボのグミやフルーツなどたくさんありました。

帰りの電車に乗るためにホームで待っていると本園さんと村山さんと会って、同じ電車に乗って帰りました。今日は1日とても楽しい時間を過ごすことができました。

担当： 水之江 梨央

日時：平成25年（2013） 8月4日（日曜日） 天気 晴れ



今日の日程

受入家族の企画

○紙飛行機作り

○サラダ作り

○湖に泳ぎに行く

今日は、家族と過ごす一日でした。

朝食は Hinke 家定番のパンとベーコン、チーズ、フルーツです。朝食は Mama がいつも作ってくれるので、僕と Konrad はいつも片づけを手伝います。

朝食の後は、僕が日本からお土産に持って行った宮崎駿監督の「風立ちぬ」に出てくる「白い紙飛行機」を Konrad と一緒に作りました。宮崎作品には日本の文化が色濃く表現されているので、ドイツに行くことが決まった時からホストファミリーに見せたり話したりしたいと思っていました。紙飛行機は何とか作り飛ばしたのですが、作品のことを英語で伝えるのは思った以上に難しく、少ししか伝えられませんでした。来年 Konrad が鳥栖に来るときに、一緒に作品を見たり話したりしたいと思います。

午後は、疲れも溜まっていたので少し昼寝をして、起きると、「料理を作るよ」と言われ、僕と Konrad とでフルーツサラダを作りました。

その後、「湖に泳ぎに行く！」と言われ、家族で車で出かけました。ドイツは北側は海に面していますが、ツァイツ市から海までは遠いので、夏はよく湖やプールに泳ぎに行くようです。湖につくと他のホストファミリーの4家族も来ていて合流しました。みんなで持ち寄った料理でディナーが始まりました。僕と Konrad が家で作ったサラダもこのディナーのためだったのだと分かりました。外で食べるディナーは美味しかったです。湖ではボートに乗ったり、泳いだりしました。水がとても冷たかったです。

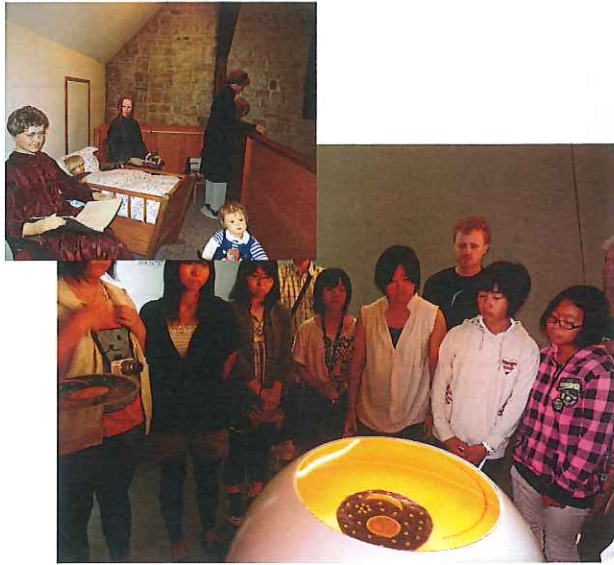
ドイツの日曜日は、気の合う家族と集い、食事をしたり、話したり、夜まで一緒に過ごすことが多いです。夜と言っても八時くらいまで、かなり外が明るいために、夜遅くまで楽しめます。今日も楽しい一日でした。

担当：濱邊 響

日時：平成25年（2013） 8月5日（月曜日） 天気 晴れ

今日の日程

- | |
|-------------|
| 「青少年の家」に集合 |
| アルヒェネブラ訪問 |
| 「グルケ」で昼食 |
| ケーテクルゼ博物館訪問 |
| 解散後、市民プールへ |



この日は、アントニアの父の車で青少年の家まで送ってもらった。この日は珍しく一番のりだった。ファンキーの車に乗ってアルヒェネブラへ。ネブラディスクの博物館の前で取材をうけた。「この一週間の感想は？」とかもう聞きあきた質問。何度も取材を受けて慣れてはいたけど、質問が毎回アバウトで毎回答えには悩んだ。また、この日は私の担当だったから、通訳のペーターにドイツ語を教えてもらって、博物館でネブラディスクの説明をしてくれた女のの人にドイツ語でお礼を言った。日本語だったら簡単に伝えられる感謝の気持ちも、ドイツ語が故に気持ちが伝わるかすごく不安だった。でもアニカに「Good!」って言ってもらえて嬉しかった。

その後、人形の博物館へ行った。この人形をつくったケーテクルゼさんには7人の子どもがいて、その子どもをモデルに作ったらしく、今にも動きそうなくらいリアルだった。正直ちょっと怖かった。そして近くのカフェでアイスを一人1つずつ食べた。ドイツのアイスはたくさん種類があって、そこのアイス屋さんほ、日本じゃ絶対ないような味などのアイスがあった。またこの日の昼食はステーキだった。お店は高台にあってすごく静かで景色もよく雰囲気の良いところだった。

そして青少年の家にもどり解散後、となりにあるプールへ。日本では長袖の水着やジーンパン風の水着は普通だが、ドイツではすごく変なことらしい。日本人というだけでも注目を浴びるのに、さらに水着も変だと、さらに見られる。また、監視員さんには「Onlyビキニ!」と言われ、長袖もジーンパン風の水着も許可してもらえなかった。日本人は泳げないというイメージを変えたくて頑張っていたけど、それ以上にドイツ人は泳げて驚いた。久しぶりのプールなのに頑張りすぎて、次の日筋肉痛だったのに、レアたちにも、なおこちゃんにもバカにされたのは、すごく悔しかった。

担当： 池部 優

日時：平成25年（2013） 8月6日（火曜日） 天気 晴れ→雨と曇



今日の日程

8:00～ 「青少年の家」に集合
8:30～ 養蜂場訪問
10:00～14:00 乗馬体験
14:30～ ボックヴィッツ水車見学
15:30 ダニチーズ博物館見学

○養蜂場

隣りにある病院の患者さんの療養の場にもなっている。過去10年間、誰もさされたことがない。ハチミツをもらって嬉しかった。

○乗馬体験

しつけされていて、大人しく賢い馬だった。馬の上でまわったり、手で合図したりして、とても楽しかった。また乗馬したいと思う。

昼食の時に、りおちゃんの“HAPPY BIRTHDAY!!”だったので、みんなでお祝いしてケーキを食べた。『りおちゃん、おめでとう!!』

昼食の後は乗馬に乗った。馬車で普通の道路を通過して集合場所まで行った。普通の道路を馬車で通って驚いた。

○水車見学

火事などで、現在あるものは今の所有者が作ったらしい。4階建てで、昔は羽がまわる力で小麦粉を製造していたが、今は、ただまわっているだけらしい。

市役所の人（ドイツの人）とも、すごく仲良くなった。

○ダニチーズ

すごく臭いのかと思っていたが、そんなにはなかった。何人かはマスクを着用していた。臭いは1年ほどでなくなるらしい。味は、友達によるとヤギのミルクから作ったチーズはヤギの肉の味がして、牛のミルクのものはおいしいらしい。

担当： 日吉 葉月

日時：平成25年（2013） 8月7日（水曜日） 天気 晴れ



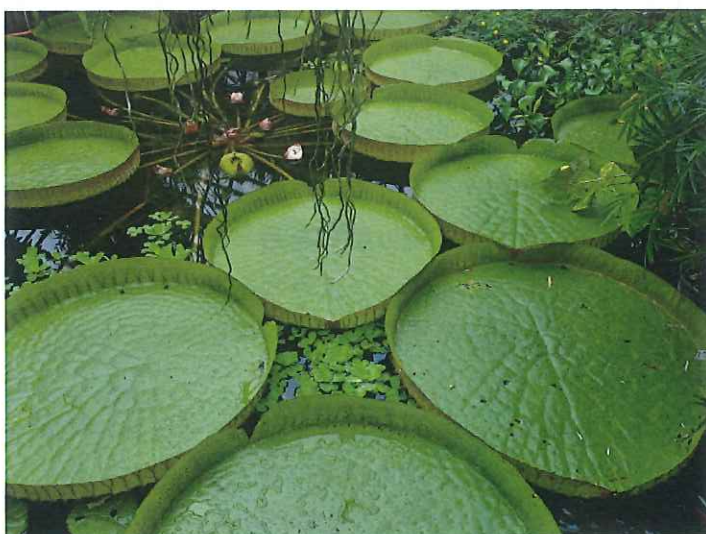
今日の日程

プラネタリウム見学
植物園見学
ショッピング
プール遊び

今日は、プラネタリウムの見学をしました。星がたくさんイメージだったけど、現代的なアートチックのものでした。言葉はなかったけど、言葉がなかったにもかかわらず、とてもおもしろかったです。初めて、星ではなくアートチックなプラネタリウムを見ました。45分という結構長い時間だったけど、楽しくて全然あきませんでした。

次に、植物園の見学をしました。日本にもあるような植物もあったけど、初めてみるものもたくさんありました。一番驚いたのは、アマゾンに咲いているハスの花を見たことです。とても大きくて“本当に花なの？”と不思議に思いました。初めてみたハスの花に感動しました。

その次に、ショッピングに行きました。その後、ホストファミリーの人達とプールに行きました。日本の市民プールと全く違い、とても広く、大きい滑り台やジャンピング台もありました。3mの深さや2mの深さのプールが普通に設置されていてびっくりしました。とても楽しかったです。



担当： 猿渡 初佳

日時：平成25年（2013） 8月8日（木曜日） 天気 晴れ



今日の日程

ポーザ修道院見学

ワイン畑の見学後、ヘーリッヒさんと合同料理・・・昼食

キャンプファイヤー

解散・受入家庭へ帰宅

いつもは車で移動だったが、この日は歩いてポーザ修道院まで行った。いまでは修道院はなく、建物だけが残っていた。建物は当時のままのようでツァイツの古い歴史を感じる事が出来た。

その後、ヘーリッヒさんのワイン畑を見学しに行った。優しく出迎えてくれたヘーリッヒさんとまずお酒の入っていない“カクテル”を作った。用意された様々なジュースを混ぜたり、アイスや果物などをトッピングしたりしてみんなそれぞれオリジナルのカクテルを作った。また、ヘーリッヒさんがツァイツと鳥栖をイメージしたカクテルを作ってくれたり、スタミナがつく（卵やソース入りの!!）カクテル(?)を作ってくれたりなど楽しく過ごした。

（ちなみに案内してくれた翻訳者やツァイツの市役所の人が飲んでいたがあまりおいしくはなかったようだった…^^;)）

その後、ワイン畑を見学した。広大な土地にたくさんのブドウがあり、これが全てワインになったらどれだけの量になるのかなどと考えてみたが、想像できなかった。

戻った後、それぞれのホストファミリーのみんなが勢ぞろいしており、キャンプファイヤーの準備が出来るまで、集合場所にあったゲームやフルーツバスケットなどをして遊んだ。夕方くらいになるとキャンプファイヤーをした。ドイツの空は10時くらいにならないと暗くならないため、夕方ではあったが空はまるで昼のように明るかった。子供たちで木の棒などを集め、何をするんだろうと思ったら集めた木の棒にパンの生地を巻いてわたされ、キャンプファイヤーの火で焼いて食べるのだと教えてもらった。パンが焼けるまでみんな火の周りを囲み、話したりじゃれあったりして焼けるのを待った。自分で棒を持っていい具合に焼けるように棒をまわしたり、火の近くによってみたりなどしなければならなかったのもとても暑かった。焼きたてのパンはとても熱くて口の中をやけどしそうになったけどおいしかった。

その後も帰るまでいろいろなことをして遊んだ。みんな笑顔ではしゃぎまわって本当に楽しくて、あと3日しかこの人たちと一緒にいられないのだと思うととても悲しくなった。

担当： 川島 千佳

日時：平成25年（2013） 8月9日（金曜日） 天気 晴れ



今日の日程

8:30～ 送別会の準備

18:00～ 送別会

○送別会の準備

*色紙（しきし）・・・ホストファミリーにお礼の意味を込めて、色紙に手紙を書いた。
英文を考えるのはとても難しかった。

*日本食作り・・・担当ごとに、カレー、肉じゃが、ぎょうざ、お好み焼きを作った。
お好み焼きはキャベツを切りすぎて、たくさんできてしまった.....。
しかし、どれも上手にできていて、とてもおいしかった。

○送別会

あっという間に時間は過ぎていった。特に印象に残っているのは、漢字で名前をホストファミリーの前で書いたことだ。ドイツの方にとって筆ペンはとても珍しいものだったらしく、書いているところをすごく写真で撮られた。とても緊張した。緊張したせいで、漢字をまちがえてしまった。そして今もその漢字はまちがえたままになっている.....。

自分たちが作った日本食は、みんなたくさん食べてくれて、「おいしい」と言ってもらえた。とてもうれしかった。頑張って作ってよかったと心から思った。

送別会が終わって、たくさんの人と写真を撮った。今日で会えるのが最後という人もいて、別れがとても悲しかった。

今日はとっても幸せな一日だった。忘れない思い出ができた。

担当： 藤光 菜緒子

日時：平成25年（2013） 8月10日（土曜日） 天気 晴れ



今日の日程

受入家族の企画

今日はドイツのマイセンという所の陶器を見に行きました。マイセンの陶器は有名らしく、有田と姉妹都市だそうです。最初は全然興味がなく、ただ連れていかれているような気がしたけど、作品の一つ一つをよく見ると、とてもきれいで感動しました。

作り方の説明（日本語）も聞きやすく、とてもわかりやすかったです。

昼食は、ドイツのマクドナルドで食べました。私はドイツにもマクドナルドがあるとは思っていませんでした。

でも、日本とほぼ一緒でとてもおもしろかったです。ポテトは山型の棒につきさして食べるそうです。日本にも流行らせたいな・・・。

その後、一回解散し、みんなでバーベキューをしました。（5家族一緒に）さすがドイツだけあって、お肉がいっぱい出ました。これが最後の夜なので、みんなでたくさんしゃべり？たくさん笑いました。

ちょっと、さみしい気がするけど、この2週間とても楽しかったです。（エリザベスが最高でした・・・）

夜はまだ時間があるので、これからも話していこうと思います。

担当： 染矢 留里

日時：平成25年（2013） 8月11日（日曜日） 天気 晴れ

今日の日程

ライブツイヒ空港 →フランクフルト空港



この2週間あっという間でした。初めはすごく不安で自分の英語は通じるのか、家族とは、うまくやっていけるのか、食事は自分にあうのか。いろいろな不安を抱えて行ったのに、帰ってくると、その不安はなくなってしまいました。そして、もっとドイツにいたい、もっとホストファミリーにいたいという気持ちが大きくなっていました。

たった2週間で、ここまで自分の気持ちに変化するとは思わなかった。

とても良い2週間を過ごすことができた。

担当： 宮地 董

日時：平成25年（2013） 8月12日（月曜日） 天気 晴れ



今日の日程

中部国際空港 → 福岡空港
→ 鳥栖市役所 到着
解団式（帰国報告）

私たちは二週間ぶりの日本に降り立った。思い起こす必要など無く、とても密度の濃い二週間であった。決して初めての外国では無かったが、誰も知る人の居ない中で、母語では無い言語を話し続ける。行く直前まではずっと不安に思っていたが、いざ行ってみると徐々に慣れ、結構楽しかったと言うのが本音である。

行きと同じように丸半日のフライト。無意識のうちに疲労は溜まっていたはずだが、もう日本に帰ると言うことで意識は完全に現実へと叩き戻される。そう、宿題である。ホームステイ先でも家で少し数学の宿題をしていたら「僕もこんな事をしてるよ～」と話題の種になったりした。国境を隔てた先でもベクトルとかしているのだとすると何だか笑えた。とにかく、そのおかげで飛行機の中ではあまり寝ることができなかった。一番印象に残っているのは、機内食で出た冷麦か素麺と一緒に出てきた麺つゆである。その2週間で気付かぬうちに醤油に飢えていたようで、感動して飲んでしまった。悲しきかな、日本人の性だと思う。今度から旅行に行く時は醤油を持って行こうと思った。

長いフライトを終えて中部国際空港へ。ドイツにいる間も少しは連絡を取っていたので日本が猛暑というニュースは聞いていたが、成る程これが「蒸し暑い」なのかと認識できるほど湿った空気が肌を刺す。ドイツでの朝は寒すぎて長袖を着ていた程だったので、今すぐにでもドイツに帰りたい。そして乗り換えた国内線では、周りの人が皆日本人で、日本語が交わされ、日本語の雑誌があった。別段変わったことでは無いのに、とても真新しく感じられた。

そして福岡空港を経て市役所へ。暑さと疲れでバスに酔い、市役所に着いても、今にも吐きそうなほどだった。こうして私達の旅は終わった。月並みな表現ではあるが、様々なものを得ることができたと思う。英語という概念は好きだから会話自体何も苦ではなかったけれど、次会う時はドイツ語で話せたら良いなあ、というのが次の目標だ。他の人がしてないような経験、交流の中で築いた関係、そして少々の面白い土産話。充足した日々を過ごせて何より楽しかったし、これが知らず知らずのうちに私の人生を変えていることを想像したらわくわくした。

何はともあれ皆さんお疲れ様でした。多大な迷惑をかけた他の団員の皆さん、引率して下さった村山さんと本園さん、このような企画を支えて下さったその他市役所の皆さん、そしてホストファミリーの方々に感謝を述べて終わらせて頂きます。ありがとうございました。

担当： 山本 尚志